

人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて (審議のまとめ) 概要

(平成30年12月14日 科学技術・学術審議会 学術分科会 人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ)

- ・現代社会においては、科学技術の成果の社会実装により、人間の社会生活が大きく変化し続けている。
 - ・他方、人間社会との調和的な科学技術の社会実装に向けた倫理的・法制度的・社会的取組が求められている。
 - ・また、人口減少・超高齢化やグローバル化等により、人々が共有する価値・文化・社会が大きく変化している。
- ➡ 人文学・社会科学が、科学技術と社会の調和、未来社会の共創のためにその真価をより一層主体的に発揮していくことが期待されている。

(1) 転換期における人文学・社会科学の現代的役割

- 我が国社会や世界が転換期を迎える中、「意味」や「価値」を探求する人文学・社会科学の学術知に対する期待が高まっている。
- しかしながら、研究分野が過度に細分化している、現代社会が対峙している社会的課題に対して十分な応答ができていないとの指摘が今も少なくなく、現代においては、個々の専門的な研究がマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている状況がある。
- この克服のためには、**現代の現実社会が直面する諸課題に関する研究を行う中で、人文学・社会科学の諸学が分野を超えて共有できる本質的・根源的な問いに対する探究を深化させていくアプローチ**が有効。
- 科学技術の成果を人間の幸福や社会と調和させながら最大限活用していくためには、自然科学との間で分野を超えた多様な形での連携・協働が必要。
- しかしながら、自然科学による問題設定が主導する形となって人文学・社会科学の研究者が専門性の関連でインセンティブを持ちにくいこと、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知を自然科学から発せられる具体的ニーズに生かすには距離があることなどの課題がある。
- この克服のためには、**課題解決の必要性について、各々の専門的視野からの理解と納得を深めることを通じて認識を共有し、調和的な社会実装について、人文学・社会科学の中で位置付けを与える**ことが求められる。

(2) 人文学・社会科学における研究データの活用に関する展望と課題

- 人文学・社会科学においてもデータ収集・分析という研究手法は一般的なものとなっているが、デジタル化された研究データの利用環境整備は諸外国に比べて遅れている。
- 他方、データサイエンスを応用したデータ駆動型の新しい手法を取り入れることにより、これまでにない学術的・社会的成果を生み出すことに期待が寄せられている。
- 基盤となる共同利用可能なデータ拠点を整備するとともに、社会実験やシミュレーションを通じて未来社会の設計に資するデータを産出**することが急務。

(3) 国際性向上

- 学術研究の国際展開は、学術研究の水準向上や新たな知的展開という観点から極めて有意義であるものの、人文学・社会科学においては、日本語の固有性や、地域によってコンテキストが異なるといった性格から、国際展開が進んでいない分野がある。
- しかしながら、そのような性格があるからこそ、**我が国発の研究成果の国際発信や国際共同研究への積極的な参加により、研究に新しい概念や価値観を創出**することが期待できる。
- また、我が国が高等教育や学術研究を母国語でできる数少ない国の一つであることを源泉として創出される価値があることに十分留意することも必要。
- 国際化の推進に当たっては、国際共同研究の拠点となる組織の形成が重要。

未来社会を見据えた共創型プロジェクト

- 人文学・社会科学固有の本質的・根源的な問いに基づく**大きなテーマを設定し、その中に自然科学も含む分野を超えた研究者や外国人研究者が参加し、相互の議論を通じて現代的課題に関する研究課題を設定し、共同研究を行う中で問いに対する探究を深めていく共創型のプロジェクト**を行うことが有効。
- プロジェクトの初期段階から、大きなテーマの下で研究者の内発的動機に基づく提案を募り、その提案を異分野の研究者が交換・議論して研究課題を形成。

研究データの共同利用のための基盤整備、データサイエンスの応用促進

- 人文学・社会科学データインフラストラクチャーの構築事業については、恒常的なデータプラットフォームとして維持・充実が図られるべく、関係する研究機関等との連携・協働により、**組織的な拠点形成に向けた検討に着手**することが必要。
- データサイエンスの手法を人文学・社会科学の新たな展開を拓くための有効な手段として加速的に促進していくため、**情報科学の研究者との協力体制の構築について検討**する必要がある。

※上記のほか研究評価の在り方、社会に向けた意義の発信、次代の人文学・社会科学を担う人材の育成については、今後の検討が求められる。

報告書全文はこちらから http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/044/houkoku/1412891.htm